

＜ソフィア 2013 日本選手団の編成にかかる指針＞

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会

2012 年 11 月 10 日策定

はじめに

第 22 回デフリンピック夏季大会（ソフィア 2013）に、

(1)高水準の競技に適切な準備ができている競技者のみを派遣し、

(2)競技者が持てる能力を最大限に引き出す環境を整えるために、

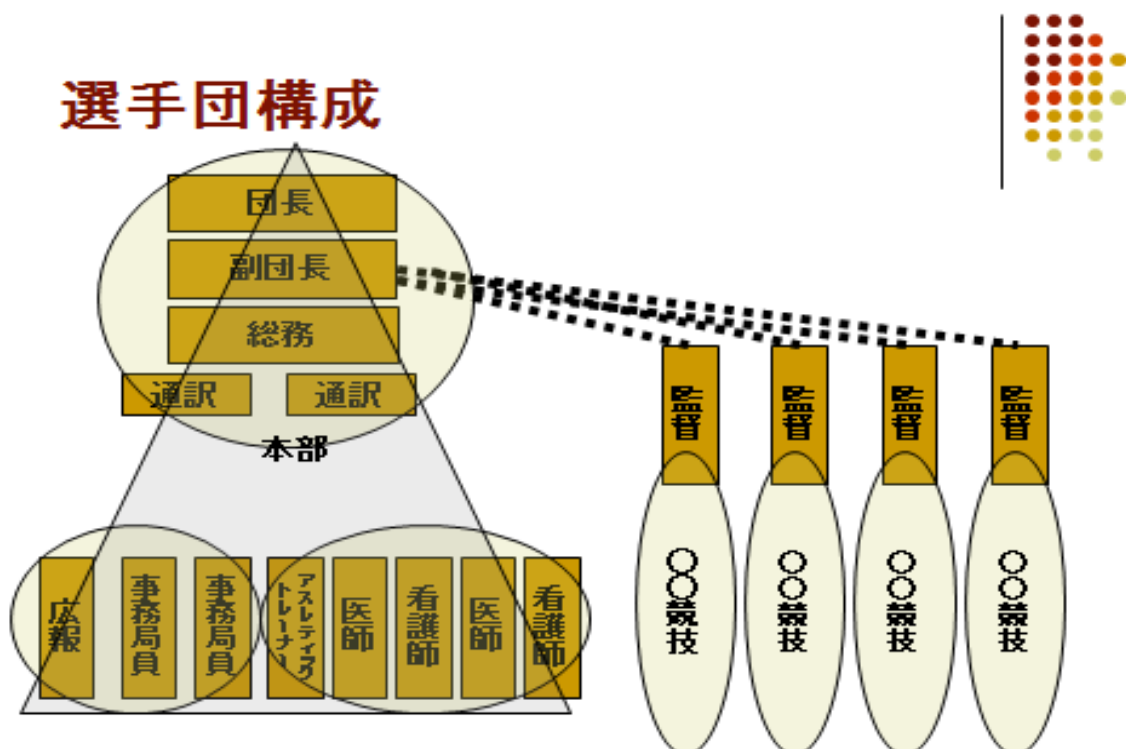
全日本ろうあ連盟デフリンピック派遣委員会は日本選手団編成にかかる指針をここに策定し、全日本ろうあ連盟 2012 年度第 3 回理事会承認後の 2012 年 11 月 12 日をもって発表する。この指針は厚労省および文科省、日本パラリンピック委員会にあらためて報告されるほか、国民に広く公開されるものである。

各競技団体はこの指針をもとにソフィア 2013 でメダルを競えるための選手強化及びチーム編成準備を行う。

選手団編成について

従来は団長、総監督、事務局長を置いてきたが、競技上の様々な対応を迅速に行う指示系統の観点から、今回は、団長、副団長、総務に変更する。それぞれの任務は下記の通りにする。

団長の任務は全日本ろうあ連盟の設ける派遣委員会によって委託された職務に加えて、国際ろうあ者スポーツ委員会(ICSD)事務局、デフリンピック組織委員会(DCOC)事務局との連絡調整を行うことになる。また、ICSD 総会に日本を代表して出席するため、その任務を全うできる立場である全日本ろうあ連盟理事会から理事を配置する。



団 長：連盟理事資格所持とする。 ICSD 総会出席なども任務する。

全日本ろうあ連盟理事・スポーツ委員会委員長 **太田陽介**

副団長：団長を補佐し、各競技チーム監督の総括担当をする。

全日本ろうあ連盟スポーツ委員会国際部長 **栗野達人**

総 務：団長の指示を受けて本部を統括する。

全日本ろうあ連盟理事・スポーツ委員会事務局長 **嶋本恭規**

通 訳：英語及び手話通訳を交替で行う。

広 報：選手団の広報を統括し、メディアへの対応を行う。

事務員：デフリンピック組織委員会との連絡・調整を行って選手団滞在にかかる事務を行う。英語上級レベルが求められる。本部の通訳・事務員等は各競技チーム内の打合せや TD 会議や抗議や健康管理などは支援しない。ただし、「非常事態」と副団長が判断した場合は支援に入る。

アスレチックトレーナー：医師・看護師と連携して、選手の体調管理に関して各競技チーム（のトレーナー）にアドバイスを行う。手話上級レベルが求められる。

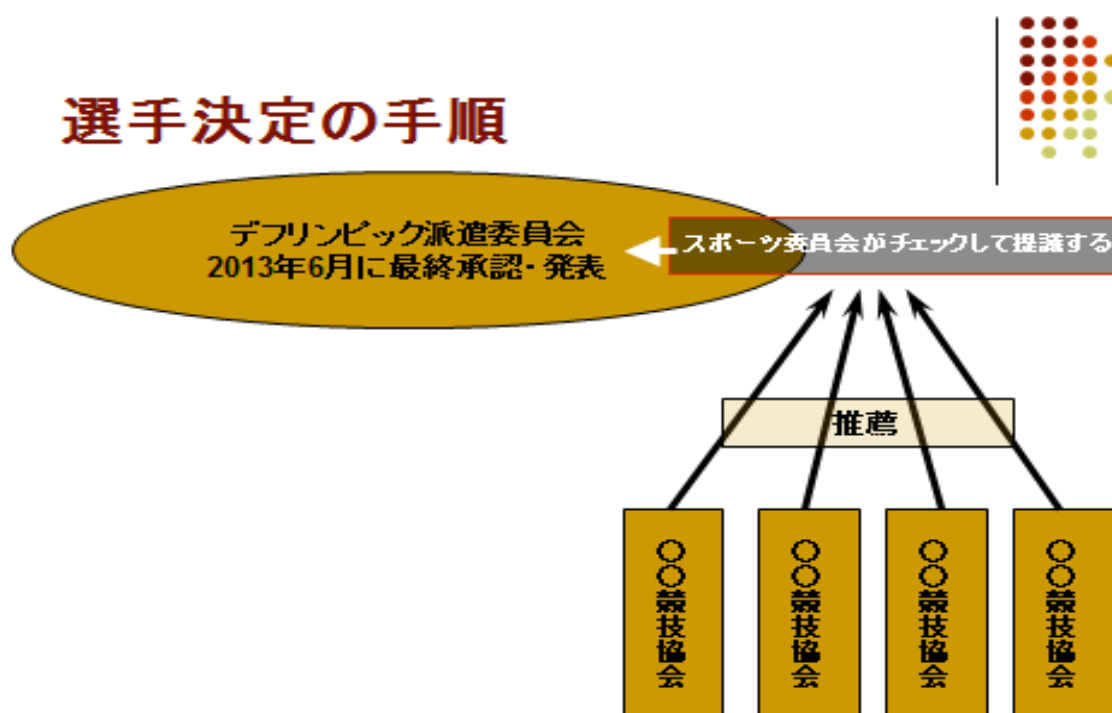
医 師：アスレチックトレーナー・看護師と連携して、医療処置及び予防を行うほか、アンチドーピング管理に関して各競技チームにアドバイスを行う。手話上級レベルが求められる。

看護師：医師と連携して、医療処置及び予防を行う。選手と直接意思疎通を図り、医師と選手の意思疎通を支援するために、手話通訳士・者資格の所持が求められる。

監 督：団長と連携して各競技チームの統括を行う。各競技 TD 等との連絡調整・チームメンバーへの指導も含む。

選手決定の手順について

下記の選手推薦基準に従って各競技団体から 2012 年 2 月までに推薦をもらい、最終的に 2013 年 3 月に予定しているデフリンピック派遣委員会をもって決定する。なお、大会へのファイナルエントリーは 6 月末を予定しており、それまでに身体の調整や他やむを得ない事情による交代することがあり得る。



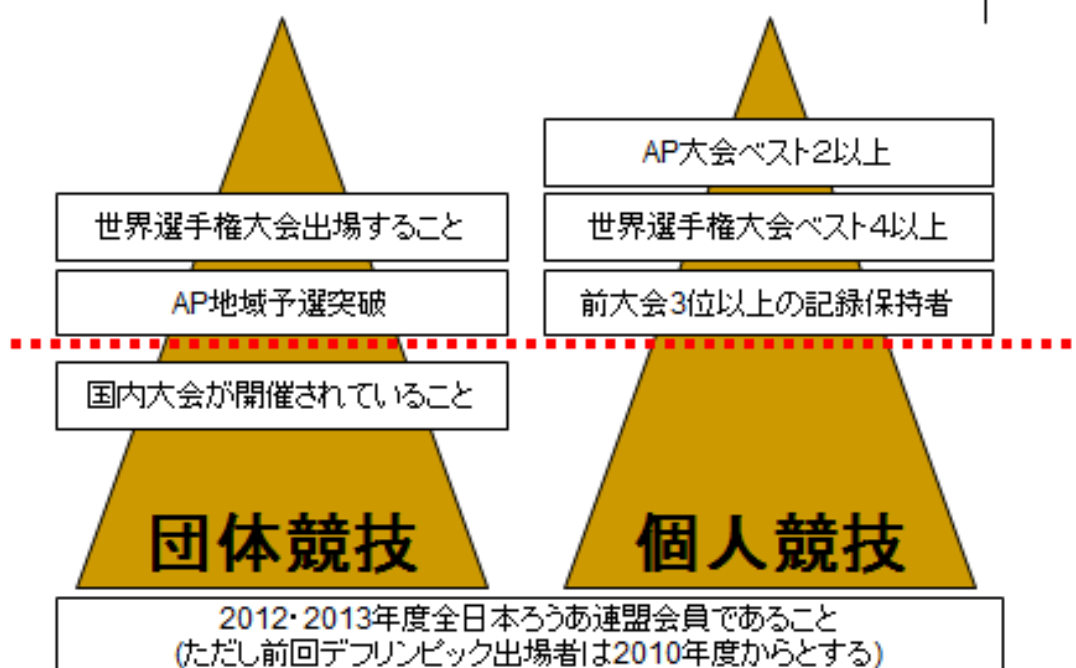
選手推薦基準について

高水準の競技に適切な準備ができていて、メダルの可能性がある競技者のみを「ソフィア 2013」に日本代表として派遣するために、各競技団体は次に示す推薦基準に基づいて選手の推薦を行う。スタッフについては基準を特に設けない。

各競技団体は推薦する選手・スタッフがデフリンピックの精神及び世界アンチ・ドーピング規定について十分に認識しこれに従って日本選手団団員として行動することを保証しなければならない。

ICSD 規約により、デフリンピックに参加する聴覚障害を持つ選手団員は ICSD 加盟団体の会員でなければならない。従って、日本選手団団員は少なくとも 2012・2013 年度において全日本ろうあ連盟会員でなければならない。前大会（台北 2009）出場選手は、2010・2011・2012・2013 年度において会員でなければならない。

選手推薦基準(全体共通)



サッカー競技

- 男子・女子とも世界選手権大会に出場すること
- 男子・女子とも AP 地域予選を突破すること
- 両方とも、選手推薦基準は日本ろう者サッカー協会の定めるところによる。

バレーボール競技

- 男子・女子とも世界選手権大会に出場すること
- 男子・女子とも AP 地域予選を突破すること
- 両方とも、選手推薦基準は日本デフバレーボール協会の定めるところによる。

バスケットボール競技

- 男子・女子とも世界選手権大会に出場すること
- 男子・女子とも AP 地域予選を突破すること
- 両方とも、選手推薦基準は日本デフバスケットボール協会の定めるところによる。

卓球競技

- 2012 年 4 月の世界選手権大会でシングルス・ダブルスベスト 4 の選手
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でシングルス・ダブルスベスト 2 の選手
- 以上の選手を日本ろうあ者卓球協会の管理する 2012 年度ランキングで上回る選手

陸上競技

- 2012 年の世界選手権大会で決勝進出の選手
- 上記大会 4 位記録又は台北 2009 大会の 3 位記録を超える公認記録を 2012 年 9 月から 2013 年 5 月までの間に出した選手

オリエンテーリング競技

- 2011 世界選手権大会でベスト 4 の選手

テニス競技

- 2011 年ドレセマエレ杯シングルス・ダブルス ベスト 4 の選手
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でシングルス・ダブルスベスト 2 の選手
- 上記選手を ICSD テニス TD の定める 2012 年度ランキングで上回る選手

ビーチバレーボール競技

- 2012 年開催予定の世界選手権大会ベスト 4 のペア選手
- 2012 年度もしくは 2013 年度初めまでに国内で 8 ペア以上による大会を実施し、その大会で優勝したペア

バドミントン競技

- 2011 年の世界選手権大会でシングルス・ダブルス ベスト 4 の選手
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でシングルス・ダブルスベスト 2 の選手
- 上記選手を日本ろう者バドミントン協会の管理する 2012 年度ランキングで上回る選手

水泳競技

- 2011 年の世界選手権大会でベスト 4 の選手
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト 2 の選手
- 上記選手の記録を超える公認記録を 2012 年度中に出した選手

ボウリング競技

- 2011 年の世界選手権大会でベスト 4 の選手
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト 2 の選手

- 上記選手を日本ろう者ボウリング連合の管理する 2012 年度ランキングなどで超える選手

空手競技

- 2012 年の世界選手権大会でベスト 4 の選手
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト 2 の選手

柔道競技

- 2012 年の世界選手権大会でベスト 4 の選手
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト 2 の選手

自転車競技

- 2011 年の世界選手権大会および台北デフリンピックのメダリストと同格のタイムを出せる選手
標準記録のあるロードレース用コース（一周 5 k m） 1 0 分～9 分台
- 2012 年第 7 回アジア太平洋ろう者競技大会でベスト 2 の選手

各競技チームのスタッフ

デフリンピックで定める各競技につき最低 1 名のスタッフを保証する。

選手 4 名毎に 1 名のスタッフを保障する。（バスケットボールの場合は、1 名+6 名の 7 名となる）
スタッフにどの役割を振るかは各競技チームが決定する。

ただし、監督は必ず置くこと。

保証人数を超えるスタッフの配置は自由とするが、各競技協会が経費を負担することとする。

以上